

## 先端基礎研究交流棟の紹介

### 基礎研究推進室

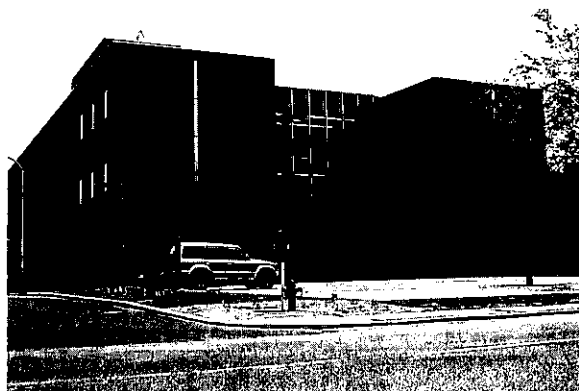
先端基礎研究センターは、原子力における先端的基礎研究課題をテーマとして重点的に取り上げ、研究のための人材を所内に限らず広く外部から集め、第一級の研究施設を有効に活用して基礎研究を推進しようという目的で平成5年度から発足した。当センターでは当初から、機能だけがあって実空間を持たない「姿なき研究所」がよいのか、あるいは研究拠点となる固有の空間を持つべきではないのか、との議論があった。ある時期まで、「姿なき研究所」の方がその実効を高めるようにも見えたが、時間が経つにつれて、やはりセンターは固有のスペースを持ち、その任務を支障なく遂行すべきである、という結論に傾いていった。この話が具体化したのは平成7年度の概算予算要求時からで、平成9年度から建設が着工され、この11年度に竣工した。

建家の構造は鉄筋コンクリート造地上4階建（4階部分は機械室）で、建築面積は約2,000m<sup>2</sup>、延べ面積は約5,000m<sup>2</sup>である。

1階は、東海研究所との共用になる研究交流スペースとなっており、200名規模のシンポジウム、セミナー等の研究集会の開催を可能とする大会議室や24名規模のセンター会議室、ポスターセッション等を行う多目的スペースやコミュニケーションラウンジなどがある。2階は、センター長室、次長室、基礎研究推進室をはじめ研究グループの居室やルーフガーデンも設けられている。3階は、12名規模の会議室、各研究グループの居室が主である。

従来、分散していた研究居室を同一建家に集約することでセンタースタッフのまとまりが良くなることと同時に、大学や外国研究機関など原研内に止まらず広

く国内外との交流の場として桁違いの機能が、今後大いに期待できる。



先端基礎研究交流棟



大会議室